



# CEO が自社の CSR について語る

今回が 13 回目となる「レスポンシブル・ビジネス・サミット」に筆者は参加した。これは、英国エシカルコーポレーションの主催で、5 月 19 日・20 日とロンドンで開催され、毎年約 400 人が参加する大きなイベントだ。このイベントは、特に企業の CEO、副社長、CSO (Chief Sustainability Officer) などがスピーカーとして参加するものだ。

これらのスピーカーは、各企業から招待された 52 人で、その内訳は、CEO:12 人、副社長:2 人、CSO:3 人、CSR 部長:20 人、他:15 人である。それぞれが自社の CSR / サステナビリティに関する考え方や取り組みについて、パワーポイントを使用せずインタビュー形式で自らが語るというもので、非常に興味深いものであった。

今回の主だった大企業からの CEO の出席は、英国スーパーマーケット王手の「セインズベリー」、南アフリカを中心として世界的なビール・飲料会社の「SAB ミラー」、タイルカーペットの世界的企業である「インターフェイス」などだ。

## 各社 CEO 自らが語る、CSR に関する考え方

英国スーパーマーケット王手のセインズベリーの CEO ジャスティン・キング氏は、セインズベリーの「20 × 20 サステナビリティプラン」について、「我々が、20 × 20 サステナビリティプランの目標を作成した理由は、サステナビリティの観点から、非常に多くのことを実施していたが、それらを念頭に置いて、より明確な目的地が必要と感じたからである」と述べ、「我々が 2030 年の目標を設定するなら、顧客とのコミュニケーションの点では、顧客は我々が真剣ではないと思うだろうし、彼らも今すぐ行動する必要がないと思ってしまう。この点で 2020 年はちょうど良い時期の目標だ。我々が今何か行動を起こせば、異なる結果をもたらすことができる」と続けた。

セインズベリーは、既に MSC 認証を受けた魚介類や、フェアトレードのバナナ、紅茶、コーヒーなどを世界で一番積極的に活用・販売しているスーパーマーケットだということだが、「近い将来、現在の消費者が望んでいる良品質で、持続可能で、かつ手頃な価格の製品がサプライチェーンから継続して供給がなされるのは難しくなるので、その部分にはさらにこれから正

しい投資が必要となる」と述べた。

タイルカーペットの世界的企業であるインターフェイス (欧州・中東・アフリカ) 社の CEO のロブ・ボーガード氏が登壇。ボーガード氏は 2011 年にインターフェイスに参画。ボーガード氏は「インターフェイスのイノベーションに関する取り組み、2020 年の目標をサポートするために、従業員全体にその考え方を浸透させるべく、クエストと呼ばれる推進プログラムを開発、全従業員を繋げる共通の目標と一緒に持ち日々実行している」と語る。

インターフェイス社といえば、創業者であり前 CEO のレイ・アンダーソン氏がサステナビリティのリーダーとして牽引していたのが有名だ。1994 年、レイ・アンダーソン氏はポール・ホーケンの著書『The Ecology of Commerce』を読んだ後、「自分が『地球の略奪者』であることに気が付いた。このまま『取る、作る、捨てる』というビジネスモデルを維持するのであれば、環境、社会に深刻な影響を与える。今後は『地球を無謀に扱い、生態系を衰退させている犯罪者』として投獄されることもある」と自らを犯罪者と扱い、この旧来のビジネスモデルから新しいモデルへの移行を実行し、また他の経営者にもその行動の必要性を促した。

これを表すコミットメントが、「ミッション・ゼロ」という 7 つの要素を含むコミットメントで、「2020 年までに環境に与える負荷をなくす」というもので現在もインターフェイス社が取り組んでいるものだ。残念ながらレイ・アンダーソン氏は、2011 年に亡くなったが、彼が築いた理念は遺産としてしっかりとインターフェイス社に引き継がれているという。

このように海外では、CEO が自社の CSR / サステナビリティに対する考え方、また取り組みに関して自らの言葉で語っている。今回のこのイベントへの日本人での参加は私 1 人だけだったが、今後はこのようなイベントで、日本の社長あるいは現地法人の社長など自らが、海外のステークホルダーへ向け、自社の CSR / サステナビリティの取り組みを語ったり、あるいは、持続可能な社会の構築をするために CSR / サステナビリティの重要性を訴えるなど、発信をしていただければと思う。